ベストクラス選定理由書

作成者：元持典子・信岡椰紗・難波陽菜・小林実生・藤井良憲・野本立人・YE YING・前田水碧

科目名称　　社会の中の言語文化 （担当教員名：菅井三実・竹口智之）	
課　　程　：　学部	開講時期　：　前期
授業形態　：　講義	授業規模　：　８１人以上
インタビュー対象教員名　　菅井三実・竹口智之 （実施日時：7 月 30 日；　実施場所：附属図書館ラーニングコモンズ「PAO」）	
インタビュー対象受講者名　　池田葉陽・山村和輝 （実施日時：7 月 30 日；　実施場所：附属図書館ラーニングコモンズ「PAO」）	

＜選定理由＞

・受講者数が約 100 名と多いが、その中でも評価点が高い。また、評価を論述している学生が多い。

・マイクを使って学生の意見を拾い上げるなど、主体的な活動を促しているとうかがえる。

＜担当教員へのインタビューより＞

・言語の学習だけにとどまらず、学生の視野を広げられるよう工夫した。狭い世界で考えるのではなく、多くのものに触れ、ものごとを相対化できるようにしようと考えた。多様性と相対性という観点で授業を展開した。

・授業の参加を促すためには、学生の考えが見えるような工夫を行った。ちゃんと聞いていれば得点の取れる小テストや、ワイヤレスマイクを回して、主体的に参加できる工夫。

・授業内容の改善を毎年している。授業、学生が面白く聞ける工夫はしている。授業時間は学生が疲れてくるので、退屈しないようにとこころがけてアップデートしていっている。また、高校生までの学習に無かったことを務めて入れている。新しい情報を入れて喜んでもらいたいし、できるだけ具体的なことを入れて、世界の物事が遠い世界ではなく、身近なものと考えられるようにと思っている。

・対面でしている良さは、留学生が何人かいて、同席することで肌で感じられる交流や、ライブ感がある。教えている側としても、リアクションが欲しいので、即時性、空気感は対面ならでは。準備していた内容から、学生の反応を見て、変えていく。

＜受講学生へのインタビューより＞

・大学らしい授業と最初に出会えた。当たり前と思っていたことが当たり前でない(母音の数や虹の色の認識、英語の文型がスタンダードではないなど)と感じることができ、視野が広がった。

・言語教育の歴史から、言語教育とは何か、現在の言語教育につながる歴史背景を理解できた。

・とにかく楽しい。自然と自分から周囲と話ができ、マイクが回ってくることで、他者の意識の違いも感じることができた。交流の機会ともなり、対面授業の良さを感じた。大学生活のスタートとしてとても良い授業。理論的なことで難しいことは資料の振り返りや周囲との話し合いで理解することができた。

＜まとめ＞

・以上のことから、本授業をベストクラスとして推薦する。